

令和 4 年 5 月 29 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01607

研究課題名(和文)世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン

研究課題名(英文) Internationalization of Nursing Guidelines for the Development of World-Leading Inbound Healthcare Services

研究代表者

野地 有子 (Ariko, Noji)

千葉大学・大学院看護学研究院・教授

研究者番号：40228325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,000,000円

研究成果の概要(和文)：看護職のカルチュラルコンピテンスを2015年時点より高めること、看護管理の視点から病院・看護国際化ガイドラインの開発と臨床評価を行うこと目的として取組んだ結果、ドイツのシャリテ医科大学病院との共同研究によるnGlobe研修の実施により、日本版CCCHS28項目(1～5)の平均値が1.85から2.88に上昇し、能力向上が認められた。病院・看護国際化ガイドラインは、12項目から構成され、臨床応用の活用可能性と病院での導入活用の課題が示された。今後も引き続き、看護職と外国人患者双方の不安が軽減され、医療の安全・質の向上にむけ、多文化環境における看護職の文化的能力向上を推進していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の学術的意義は、わが国で初めて先行研究により開発した日本版CCCHS(Caffrey Cultural Competence Health Services)によって看護職の文化的能力(平均1.85)が測定され、潜在的に3群がみられること、3群の特徴による能力開発コンテンツを開発し、ドイツのシャリテ医科大学病院との共同研究によるnGlobe研修後に測定し、CCCHS平均が 2.88 ± 0.58 に向上したことにある。社会的意義は、国際的評価による看護国際化ガイドライン12項目を開発し、臨床応用への波及効果を促進したことにある。

研究成果の概要(英文)：As a result, the mean scores of 28 items (1-5) of the Japanese version of the CCCHS increased from 1.85 to 2.88 and the competence of the nurses improved. The Guidelines for the Internationalization of Hospital and Nursing Care consisted of 12 items, and showed the potential for clinical application and the issues for implementation and utilization in hospitals. We will continue to promote the improvement of cultural competence of nurses in multicultural environments in order to reduce the anxiety of both nurses and foreign patients and to improve the safety and quality of medical care.

研究分野：看護管理学

キーワード：病院・看護管理 多文化環境と看護ケア 看護職の文化的能力(CCCHS) 病院・看護国際化ガイドライン 外国につながる人々への看護ケア 異文化看護 nGlobe研修 IPIKA

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2010年の閣議決定で、国際医療交流(外国人患者受入れ)は、「元気な日本」復活のシナリオにおいて国家戦略プロジェクトに位置づけられた。2014年には、今後10年程度を目処に、健康・医療戦略の国際展開で、在留外国人等が安心して医療サービスを受けられる環境整備等の推進および、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に関して、医療通訳等が配置された拠点病院の整備が進められることになった。インバウンド医療国際展開が国レベルで加速されているが、その内容は、医療通訳等の配置、外国人患者受入れ医療機関認証制度、日本渡航後の保険商品の検討(訪日外国人旅行者の約30%が保険未加入で医療費の未払いの問題に繋がっている)などが主であり、外国人患者の対応で困っている看護職の課題に直接結びつくものはまだ少ない¹⁾²⁾。看護職には、明確にわからないリスクの高い状況において、高度な責任や判断が要求される。一方で、看護実践では、患者やその家族が自分の健康に関して持っている様々な懸念・関心事、態度、価値観に敏感であることも必要であり、これらの点は、ダイバーシティ(多様性)への対応能力が要求される³⁾。その能力のひとつに文化的能力(カルチュラルコンピテンス)があげられるが、わが国には国際比較の出来る評価ツールがみられなかった。

そこで、申請者らの先行研究において28項目5段階リッカートスケールよりなるCCCHS(Caffrey Cultural Competence Health Services)の日本語版を作成し、全国調査により7,494名の有効回答を得て計量心理学分析により信頼性と妥当性が検証された⁴⁾。CCCHSは得点が高い方がカルチュラルコンピテンスは高いと評価され、本サンプルによる日本の看護職の平均値(5点満点中)は1.85であった。米国のVonら⁵⁾の看護学生の3.34と比較しても、わが国の数値1.85は低く、看護職のカルチュラルコンピテンス開発は喫緊の課題であることが示された。また本データをベースラインとして位置づけ、本申請の介入研究の評価および2020東京オリンピック・パラリンピック後のわが国の看護職のカルチュラルコンピテンスの変化を測定し比較検討することが可能となった。

文献

- 1) Morse, J., Clark, L., Haynes, T., Noji, A.: Providing cultural care behind the spotlight at the Olympic Games, *International Journal of Nursing Practice*, 21(suppl.1), 45-51, 2015.
- 2) Nosaki, A., Noji, A., Mochizuki, Y., et al: Difficulties in delivering nursing care to foreign patients among Japanese registered nurses, 5th World Congress of Clinical Safety, Boston, USA, 2016.
- 3) Benner PE 著, 早野 ZM 訳: ベナーナースを育てる, 医学書院, 2011.
- 4) Noji, A., Mochizuki, Y., Nosaki, A., et al: The Development of Scale to Evaluate Cultural Competence among Japanese Clinical Nurses, *International Journal of Nursing Practice*, 23 (supple.5), 1-8, 2017.
- 5) Von, AD, Cassara, N: Perceptions of cultural competency of undergraduate nursing students, *Open Journal of Nursing*, 3, 182-185, 2013.

2. 研究の目的

平成25~28年度実施した「アジア圏における看護職の文化的能力評価と能力開発・臨床応用に関する国際比較研究」(基盤研究(A)(一般))(以下先行研究と記す)の結果を基盤とした、看護国際化ガイドラインの開発をねらいとした研究である。本研究により、看護職のカルチュラルコンピテンスを2015年時点より高めること、看護管理の視点から病院・看護国際化ガイドラインの開発と臨床評価を行うこと目的とした⁶⁾。すなわち、看護の国際化プロジェクトにより、看護職と外国人患者双方の不安が軽減され、医療の安全・質の向上ができることである。国内の専門家に加えて、国際的研究チームにより、世界をリードするインバウンド医療展開を推進することは、わが国の知的産業化にも資する。患者アウトカムをターゲットとした看護研究は米国内に多いが、日本ではまだ少ない⁷⁾。

以上の2つの課題に実証的に取組み、世界をリードするインバウンド医療展開を推進する。

文献

- 6) 野地有子: 病院と看護の国際化にむけた文化対応能力の評価について, *日本看護評価学会誌*, 5(2) 74-78, 2015.
- 7) 溝部昌子, 野地有子ほか: 看護における研究成果活用について, 第5回日本看護評価学会抄録集, p33, 2015.

3. 研究の方法

(1) 先行研究により開発されたCCCHS(Caffrey Cultural Competence Health Services)を用いて、先行研究で概念化された看護職が外国人対応で困っていること(図1)に基づく教育モジュールを開発し、能力向上の教育プログラムを全国展開し実施評価を行った。教育モジュールの開発には、海外共同研究機関として、ドイツのシャリテ医科大学病院で同時期に開発実施されていた、多文化多職種対応能力トレーニングプログラム(IPIKA: InterProfessionelles und Interkulturelles Arbeiten in Medizin, Pflege und Sozialdienst)と共同開発を実施した。2021年には再度看護職のカルチュラルコンピテンスを測定し、結果評価とした。

(2) 初年度から5年間毎年、国際シンポジウムおよび国際セミナーを開催し、成果を国民に広く開示し研究成果の普及に努めた。2020年3月以降は、COVID-19パンデミックによる移動、渡

航および海外からの研究者招聘が困難になったが、オンラインにより Webinar を早期から導入した。

(3) 個別化ケア尺度による看護ケア評価を、外国人患者と日本人患者で比較し、尺度開発を行った。Suhonen らによって開発された Individualized Care Scale (以下、ICS、個別化ケア尺度) を用いた⁸⁾。

(4) 開発した教育モジュールをコンテンツとした冊子、電子媒体、アプリの教材開発を行った。

(5) 医療・看護の安全・質保証に焦点化した、病院と看護の国際化ガイドラインを開発し、国際・国内評価を実施した。波及効果、臨床応用に役立つイラストしおりを作成し全国配布した。倫理的配慮は、研究代表者の大学における倫理審査委員会の承認を得た。

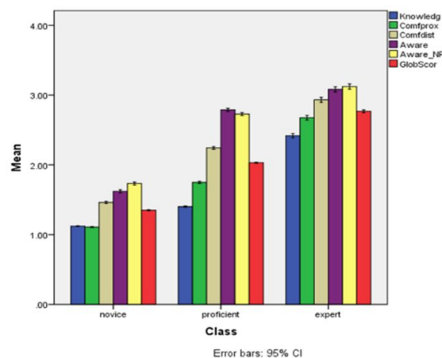
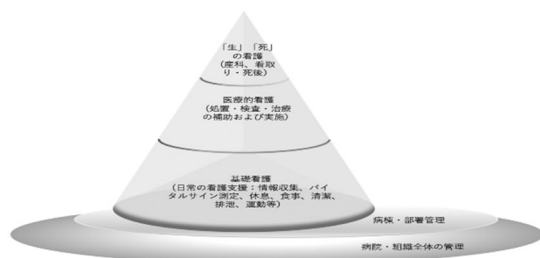


図1. 看護職のカルチュラルコンピテンスの能力開発領域 (先行研究結果から)

図2. 看護職のカルチュラルコンピテンスのサブタイプ

- 8) Suhonen R, Berg A, Idvall E, Kalafati M, Katajisto J, Land L, Lemonidou C, Schmidt LA, Välimäki M, Leino-Kilpi H. Adapting the Individualized Care Scale for cross-cultural comparison. Scand J Caring Sci. 2010 Jun;24(2):392-403. doi: 10.1111/j.1471-6712.2009.00712.x.

4. 研究成果

(1) 看護職の文化的能力向上の教育プログラムの開発・実施および評価

文献検討、ドイツとの共同研究の基盤づくりによる看護職の文化的能力向上の教育プログラムの開発期間を踏まえて、2019年度、2020年度、2021年度にわたって、継続して能力開発研修 (nGlobe 研修) を実施した。全国からの参加看護職は、のべ千人余であった。先行研究データの潜在特性分析より、わが国の看護職の文化対応能力には3つのレベル (ベーシック、アドバンス、エキスパート) のあることが示されたことに基づき (図2)、2019年度は、ベーシックコース、アドバンスコース、エキスパートコースを実施した。2020年度は、IPIKAの5モジュールからわが国の課題に沿って5回のWebinarにより、シャリテ医科大学病院の看護職・医師および社会人類学者を迎え、国内の看護職および看護学生の参加により臨床実践を基盤に検討した。その内容は、IPIKAプログラムの開発、異文化環境における対立への対応、病院における差別・格差への対応、外国人患者の臨床とコミュニケーション、多文化環境における医療倫理であった。加えて、ICN (世界看護師協会) ナイチンゲール生誕200年のナイチンゲール・チャレンジに日本から参加登録し、次世代の若手看護職育成にむけてウェビナーホストになるためのOJT (On the Job Training) をセミナーで実施した。2021年度は、図1にある領域からシャリテ医科大学と共同で3事例の検討を実施した (図3~5)。事例1では、カーテンのある内診台でパニックになった旅行中の外国人患者について検討し、「恥」という文化の境界線は、文化や人によって違うこと、この境界線を看護ケアにより変化させることができることが示された。事例2と事例3では、日独とも病院内で看護師の使えるリソースが減ってきており、看護師が文化に配慮した看護ケアを実践できるような、現代にあったリソースと仕組みの開発の必要性が示された。

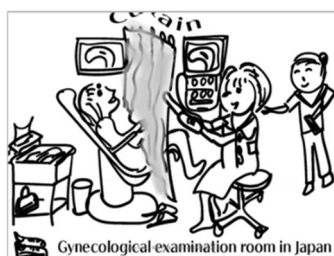


図3_事例1
診察方法の違いから生じた行き違い



図4_事例2
カリカリのトースト



図5_事例3
留学生の看取りと対応

2020年8月に日本版 CCCHS を用いて、看護職のカルチュラルコンピテンスの変化を測定するための Web 調査を実施した。COVID-19 パンデミックの影響により、2020 東京オリンピック・パラリンピックが 1 年延期になりインバウンドによる外国人訪日が激減したこと、全国的に繰り返される感染拡大の波により臨床現場が多忙を極めていたことから、全国の病院を対象とした調査に換えて、2020 年 8 月に nGlobe 研修の参加者 259 名を対象に実施したところ、93 名 (35.9%) から有効回答を得た。2015 年ベースラインとした日本の看護職の平均値は 1.85 であったが、研修後の平均値は、 2.88 ± 0.58 であった。2015 年に比べて得点は高くなったが、米国の Von ら⁵⁾の看護学生の 3.34 には至らなかった。今回も異文化に関する知識やアセスメントに関するニーズのあることが示された。また、日本の臨床能力の特徴を踏まえた評価尺度の開発が求められた。

(2) 初年度から 5 年間継続した国際ワークショップによるアクションリサーチ

初年度に、臨床ガイドラインの世界的リーダーであるカナダのシュネマン博士を迎えキックオフ・シンポジウム後、全国の看護職と本テーマに関心のある市民に公開し、国際セミナーを 16 回開催した。また世界看護師協会による国際的取組みのナイチンゲール・チャレンジに参加し、大学院生など次世代リーダーの育成に尽力した。

(3) 個別化ケア尺度 (ICS 日本語版)

参加の同意が得られた 8 病院の患者から回収した 168 件に、Web 調査による 138 件を合計し 306 件のデータから有効回答 245 件を分析対象とした。属性は平均年齢 54.8 歳、平均在院日数 17.1 日、Cronbach 係数は全項目で 0.97、折半法信頼性係数は 0.86 であった。ICS 日本語版は許容できる信頼性と妥当性を持ち、日本の看護の評価ツールとして利用可能性が示された。外国人患者と日本人患者の比較において、個別化ケアの得点は外国人患者が日本人患者より高く示された。

(4) 開発した教育モジュールからの教材開発

nGlobe 研修のコンテンツ報告書、看護英語ノート、ホームページで電子データとしての活用、アプリ開発を行った。(<https://www.n.chiba-u.jp/nglobe/>)

(5) 医療・看護の安全・質保証に焦点化した、病院と看護の国際化ガイドラインの開発と評価

病院と看護の国際化ガイドライン (12 項目) を開発し、国際・国内評価を実施した。国内評価では、2021 年 8 月開催された日本看護管理学会インフォメーションエクステンションにて、看護職の経験知の集約から、国際評価では、シャリテ医科大学病院の看護職と日本から参加の看護職の合同検討を実施しドイツから高い評価をえた。米国 CLAS の項目は網羅された一方、日本の JMIP (外国人患者受入れ医療機関認証制度) には、文化安全、職員構成、外国人コミュニティとの連携について検討の必要性が示された。臨床での活用可能性と課題が示され、波及効果、臨床応用に役立つイラスト付きしおりを作成し全国配布した。今後、本ガイドラインの 12 項目を視点とした現状分析および、病院と看護の国際化の推進についてメタバースを導入して継続的に研究に取組み、多文化環境における看護職の文化的能力向上に実践的に展開をすすめる。

nGlobe 看護国際化ガイドライン (試行版)

1. 病院の理念に 文化安全 が明示されているか	①
2. 職員構成 が多様か	②
3. 職員の病院国際化の 研修 があるか	③
4. 多言語支援 があるか	④
5. 通訳の 能力査定 がされているか	⑤
6. 患者の文化・言語の 情報収集 と管理運用がされているか	⑥
7. 外国人患者の 内部評価 (患者満足度・成果評価) があるか	⑦
8. 患者と職員からの 葛藤・苦情解決プロセス があるか	⑧
9. 地域の 外国人コミュニティとの連携 はあるか	⑨
10. 文化に配慮 した対応が実践されているか	⑩
11. 食事 の個別配慮が可能か	⑪
12. 宗教上 の個別配慮が可能か	⑫

© nGlobe Guidelines for the International Nursing System (Pilot Version) 4

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 13件/うち国際共著 7件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Tong Ling, Tong Tong, Wang Jingping, Li Yao, Li Juan, Ariko Noji	4. 巻 24
2. 論文標題 Nurses' experiences of providing transcultural nursing care to minority patients in Yunnan province: A descriptive qualitative study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nursing and Health Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Tong Ling, Ariko Noji	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 Current status and determinants of transcultural self-efficacy among > clinical nurses in a diverse city Yunnan province, China	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Japan Health Sciences Academy	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Tong Ling, Tong Tong, Wang Jingping, Li Yao, Li Juan, Ariko Noji	4. 巻 23
2. 論文標題 Determinants of transcultural self-efficacy among nurses in China: A cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing and Health Sciences	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/nhs.12876	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 溝部 昌子、野地 有子、近藤 麻理、小寺 さやか、飯島 佐知子、マシュー ポーター、炭谷 大輔、大友 英子、小林 康司、浜崎 美子	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 看護職の多文化対応能力研修プログラムに用いる教材開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際臨床医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 野地有子	4. 巻 3(7)
2. 論文標題 看護実践におけるCPGの位置づけ～看護国際化ガイドラインの軌跡と未来形～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Precision Medicine	6. 最初と最後の頁 49-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝部昌子, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, マシューポーター, 炭谷大輔, 大友英子, 小林康司, 浜崎美子	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 看護職の多文化対応能力研修プログラムに用いる教材開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際臨床医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野地 有子	4. 巻 71 (11)
2. 論文標題 看護国際化ガイドラインに向けて：看護管理の支援からの政策提言 多文化に育まれたシンガポールのICN大会に参加して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 76、77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野地有子, 野崎章子, 炭谷大輔, 大島紀子, 米田礼	4. 巻 34(4)
2. 論文標題 メディカルツーリズムのトレンドとアカデミック・アウトルック - アラブ首長国連邦ドバイの経験を学ぶセミナーを開催して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本健康科学学会学会誌	6. 最初と最後の頁 227/233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野地有子, 野崎章子, Anil Bankar, 福田淳子, 炭谷大輔, 大島紀子, 米田礼	4. 巻 41
2. 論文標題 メディカルツーリズムのトレンドと看護教育の主要課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学大学院看護学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 67/73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 炭谷大輔, 野地有子, 大島紀子	4. 巻 33 (1)
2. 論文標題 我が国の保健医療福祉におけるゲーミフィケーションの活用と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本健康科学学会誌	6. 最初と最後の頁 51/60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ariko Noji, Yuki Mochizuki, Akiko Nosaki, Dale Glaser, Lucia Gonzales, Akiko Mizobe, Katsuya Kanda	4. 巻 23
2. 論文標題 Evaluating cultural competence among Japanese clinical nurses: Analyses of a translated scale	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Practice	6. 最初と最後の頁 1/8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijn12551	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 望月由紀, 野地有子	4. 巻 33 (4)
2. 論文標題 文化ケアモデルの変遷にみるカルチュラル・セーフティ・ケアの要点~共感性を手がかりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本健康科学学会誌	6. 最初と最後の頁 245/254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野地有子, 野崎章子, 近藤麻里, 飯島佐知子, 小寺さやか, 溝部昌子, 金一東, 中山健夫, 宮坂勝之・菅原浩幸, 山口直人	4. 巻 40
2. 論文標題 看護実践におけるCPG(臨床プラクティス・ガイドライン)の位置づけ-2017キックオフ国際シンポジウム「診療ガイドラインの軌跡と未来形」-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学大学院看護学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 55/60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計67件(うち招待講演 5件/うち国際学会 24件)

1. 発表者名 Nosaki Akiko, Ariko Noji
2. 発表標題 A Comparison of the descriptions of culture in the fields of psychiatry and nursing: A scoping review protocol
3. 学会等名 22nd WPA World Congress of Psychiatry(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野地有子, 溝部昌子, 飯島佐知子, 野崎章子, 近藤麻理, 小寺さやか, 大友英子, 浜崎美子
2. 発表標題 看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの開発と活用への課題
3. 学会等名 第6回国際臨床医学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯島佐知子, 松岡光, 野地有子, 近藤麻里, 小寺さやか, 溝辺昌子, 内藤俊夫, 岡美穂, 坂恵美子, 池上俊美, 大嶺千代美
2. 発表標題 個別性のある看護の尺度日本語版(J-ICS)の信頼性と妥当性の検討
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野崎章子, 野地有子
2. 発表標題 保健医療サービス領域における文化の取り扱いに関するscoping review protocol : 精神医学領域と看護学領域での文化に関する記述の比較
3. 学会等名 第28回多文化間精神医学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ariko Noji, Hisako Fujita, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, and nGlobe
2. 発表標題 Nightingale Challenge on International Collaborative Education for the Development of Young Nurse Global Human Resources: Initiative of Chiba University and Charite Medical University
3. 学会等名 ICN Congress Nursing Around the World (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ariko Noji, Mari Kondo, Akiko Mizobe, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Nosaki, Eiko Otomo, Yoshiko Hamasaki, Shigeo Kamishima, Hisako Fujita
2. 発表標題 Nursing Strategies in a Multicultural Environment Ongoing Japan-Germany Online Case Study
3. 学会等名 The 13th International Nursing Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野地有子, 飯島佐知子, 溝部昌子, 小寺さやか, 近藤麻理, 野崎章子, 小林康司, 浜崎美子, 大友英子, 別府佳代子
2. 発表標題 医療安全と看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの創出: 国際標準と看護職の経験知の集約から
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野地有子, 須永美幸, 野本尚子, 藤田比左子, 炭谷大輔, 成田徹郎
2. 発表標題 オンラインによる学会参加の経験とその影響要因-COVID-19流行初期における学会大会の開催から
3. 学会等名 第21回日本健康・栄養システム学会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 相原綾子, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子
2. 発表標題 外国につながるのある人たちへの看護ケア -異文化との出会い 42 病院マップの開発と活用 第 2 報-
3. 学会等名 第 10 回日本看護評価学会学会集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木里美, 野地有子
2. 発表標題 看護師と医療通訳士が協働する際の課題 -看護師と医療通訳士の双方の視点から-
3. 学会等名 第 10 回日本看護評価学会学会集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯島佐知子, 松岡光, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 相原綾子
2. 発表標題 CAHPS を用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較
3. 学会等名 第 10 回日本看護評価学会学会集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野地有子, 藤田比佐子, 飯島佐知子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 小林康司, 浜崎美子, 大友英子, 野崎章子
2. 発表標題 ICTを活用したCovid-19への対応例: 看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第1報 タイムラインに沿って
3. 学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田比左子, 野地有子, 飯島佐知子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 小林康司, 浜崎美子, 大友英子, 野崎章子
2. 発表標題 ICTを活用したCovid-19への対応例
3. 学会等名 看護職の多文化対応能力を高める国際セミナー実施評価 第2報 参加者への導入と共創
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noji, A., Fujita, H., Sumitani, D., Narita, T
2. 発表標題 Creating Value for Academic Communities by Leveraging the strengths of Online Communication in COVID-19 Pandemic Environments
3. 学会等名 The 13th International Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tong Ling, Wang Jingping, Li Yao, Li Juan, Noji, A., Kitaike, T
2. 発表標題 Self-perceived transcultural self-efficacy in nurses' in third-class general hospitals in Hangzhou, China
3. 学会等名 The 13th International Nursing Research Conference, Seoul National University, Korea (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 溝部昌子, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 炭谷大輔
2. 発表標題 看護師の文化能力研修に用いる教材の検討-看護英語ノートの制作Development of Education Material for Nurses Cultural Competence-English Note for Transcultural nursing-
3. 学会等名 第5回グローバルヘルス合同大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noji, A., Fujita, H., Sumitani, D., Narita, T.
2. 発表標題 Factor Analysis Affecting Online Communication to Healthcare Professional in COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fujita, H., Noji, A., Sumitani, D., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A
2. 発表標題 Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 1).
3. 学会等名 The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sumitani, D., Fujita, H., Noji, A., Iijima, S., Kondo, M., Kotera, S., Mizobe, A., Kobayashi, K., Hamasaki, Y., Ootomo, E., Nosaki, A
2. 発表標題 Web-based Seminar as an Effective Way of Learning Including Interactive Experiences in COVID-19 Pandemic (Part 2).
3. 学会等名 The 10th Hong Kong International, Nursing Forum, 3rd Sigma Asia Region Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 野崎章子, 浜崎美子, 小林康司, 松岡光
2. 発表標題 医療通訳士と看護師の協働 -看護師・病院として準備しておくべきこと-
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野地有子, 梅田麻希, 溝部昌子, 近藤麻理, 小寺さやか, 浜崎美子, 大友英子, 飯島佐知子, 藤田比左子
2. 発表標題 外国につながる人々への看護ケア-看護学生における「異文化との出会い42病院マップ」の活用-
3. 学会等名 第25回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 組織論・組織分析 / 公的病院におけるエンド・オブ・ライフケア
3. 学会等名 令和元年度国公立大学病院副看護部長研修
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ariko Noji
2. 発表標題 Innovation for Future Nursing
3. 学会等名 Convergent Education IPE&W, Reserch Institute of Nursing Science, Hanyang University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 A.Noji, A.Nosaki, M.Kondo, S.Iijima, S.Kotera, A.Mizobe, nGlobe
2. 発表標題 The current situation and problems of nursing care in hospitals caring for international patients in Japan - To make a policy recommendation from the viewpoint of nursing administration-
3. 学会等名 International Council of Nurses Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース
3. 学会等名 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース千葉大学会場
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 カルチュラルコンピテンス教育の背景と必要性
3. 学会等名 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース千葉大学会場
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース
3. 学会等名 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース関西医科大学会場
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 カルチュラルコンピテンス教育の背景と必要性
3. 学会等名 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修ベーシックコース関西医科大学会場
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 外国人の方への医療提供を考える～看護職としての心構えや準備～
3. 学会等名 山武健康福祉センター看護管理者研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン - 外国につながる人々への医療提供 -
3. 学会等名 都立広尾病院JMIP研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 炭谷大輔, 野地有子
2. 発表標題 位置情報ゲーム「Ingress」による健康増進効果 アート・デザインの視点から
3. 学会等名 日本健康科学学会第35回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ariko Noji
2. 発表標題 Nursing Education and Curriculum Design in Japan Now as the Forefront Aging Society in the World
3. 学会等名 International Conference of the 40th Anniversary of AMS-KKU Foundation in Conjunction with the 4th Allied Health Sciences Symposium, Khon Kaen University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 看護職の多文化対応能力 - 理論とわが国の現状
3. 学会等名 nGlobe研修アドバンスコース, 千葉大学 けやき会館
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 溝部昌子, 浜崎美子, 小林康司, 松岡光
2. 発表標題 看護職の多文化対応能力研修ベーシックコースの開発と評価 第1報 研修コース開発のプロセスと構造
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝部昌子, 野地有子, 大友英子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子, 野崎章子, 炭谷大輔, 相原綾子
2. 発表標題 看護職の多文化対応能力育成を目的とした研修プログラム開発過程について
3. 学会等名 第4回国際臨床医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Atsuko Genda, Misato Ikeda, Jun Kawakami, Ariko Noji
2. 発表標題 Examination of Nursing Literature on Shared Decision Making in Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kayoko Beppu, Ariko Noji
2. 発表標題 Current State and Problems of Hospitals Providing care for Foreign Patients by a literature
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 14.Ariko Noji, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, Akiko Nosaki, Daisuke Sumitani, Ayako Aihara
2. 発表標題 Study on Evaluating a Cultural Competence Training Program in Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hikaru Matsuoka, Sachiko Iijima, Ariko Noji, Mari Kondo
2. 発表標題 Evaluation of the quality of Nursing care in Japanese hospitals as seen from for foreign staying in Japan
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoko Ueno, Sayaka Kotera, Ariko Noji
2. 発表標題 Immigrant patients' perceptions of Japanese nursing care
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tong Ling, Ariko Noji
2. 発表標題 <インフォメーション エクスチェンジ>Perceived Transcultural Self-Efficacy Nursing in Third-class General Hospitals
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ariko Noji, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Nosaki, Hikaru Matsuoka, Judith Heepe, Koji Kobayashi, Yoshiko Hamasaki
2. 発表標題 <インフォメーション エクスチェンジ>Participatory approach in "a training program for enhancing nurses' capability of responding multicultural situations"
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 食べることを治療の一環として支援するための視点と課題 - 外来化学療法を受けているがん患者への管理栄養士と看護師の協働 -
3. 学会等名 第39回食事療法学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 相原綾子、野地有子、近藤麻理、小寺さやか、飯島佐知子、溝部昌子
2. 発表標題 外国につながる人々への看護ケア - 異文化との出会い42病院マップの開発と活用 第2報 -
3. 学会等名 第10回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木里美、野地有子
2. 発表標題 看護師と医療通訳士が協働する際の課題 - 看護師と医療通訳士の双方の視点から -
3. 学会等名 第10回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯島佐知子、松岡光、野地有子、近藤麻理、小寺さやか、溝部昌子、相原綾子
2. 発表標題 HCAHPSを用いた日本に滞在する外国人と日本人の日本の病院での入院経験の質の比較
3. 学会等名 第10回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ariko Noji
2. 発表標題 Academic Outlook Education and skilled workforce on Medical and Wellness tourism from Nursing perspective
3. 学会等名 The 1st Maharashtra Health and Wellness Tourism Conference, 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ariko Noji, Akiko Nosaki, Eiko Otomo, Manami Sakamoto, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, Koji Kobayashi, Daisuke Sumitani
2. 発表標題 Difficulties in delivering nursing care to international patients among Japanese nurses : A qualitative approach
3. 学会等名 The 7th Global Congress for Qualitative Health Research (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子, 近藤麻理, 飯島佐知子, 小寺さやか, 溝部昌子, 大友英子, 坂本真奈美, 小林康司, 浜崎美子
2. 発表標題 病院の国際化における外国人患者への質の高い看護提供を目指して 看護管理の視点から
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 研究者と実践者の出会いコーナー (病院の国際化における外国人患者への質の高い看護提供)
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松岡光, 飯島佐知子, 大西麻未, 野地有子, 野崎章子, 丸山恭子
2. 発表標題 日本に滞在する外国人から見た日本の病院の看護の質の評価
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子, 炭谷大輔, 米田礼
2. 発表標題 メディカルツーリズムのトレンドとアカデミック・アウトルック アラブ首長国連邦ドバイの経験を学ぶセミナーを開催して
3. 学会等名 第34回日本健康科学学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 炭谷大輔, 野地有子
2. 発表標題 保健分野におけるゲーム要素の活用事例に関する文献検討 モバイルアプリケーションの活用実態
3. 学会等名 第34回日本健康科学学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 外国人患者対応の現状と課題
3. 学会等名 山武郡福祉センター看護管理者研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝部昌子, 野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか
2. 発表標題 医療における職員ダイバーシティでの文化の調整・適応の一例 - カンボジアA病院での調査より -
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子, 溝部昌子, 近藤麻理, 小寺さやか, 飯島佐知子
2. 発表標題 外国につながる人々への看護ケア - 異文化との出会い142病院マップの開発と活用 -
3. 学会等名 第9回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 1.野地有子, 野崎章子, 望月由紀, 北池正, 溝部昌子, 菅田勝也
2. 発表標題 我が国の看護職のカルチュラル・コンピテンス能力開発領域に関する研究～テキストマイニング分析から～
3. 学会等名 第7回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuki Mochizuki, Ariko Noji, Mari Kondo, Yukiko Iioka, Akiko Nosaki, Masae Nishiyama, Eiko Ootomo, Manami Sakamoto, Daisuke Sumitani
2. 発表標題 Educational nursing application to cultivate cultural competence in Japan
3. 学会等名 The 20th EAFONS (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Lucia Gonzales, Anne Koci, RoseMary Gee, Dale Glaser, Ariko Noji
2. 発表標題 Musings of biobehavioral researchers in studying woman's religiousness globally
3. 学会等名 2017 Conference on Medicine and Religion (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子, 望月由紀, 炭谷大輔
2. 発表標題 本の病院看護師のカルチャラル・コンピテンスと属性背景因子の関連
3. 学会等名 日本健康科学学会第33回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 炭谷大輔, 野地有子, 野崎章子, 望月由紀
2. 発表標題 外国人患者看護ケア能力向上に向けた看護職教育アプリ開発
3. 学会等名 日本健康科学学会第33回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野地有子
2. 発表標題 文化の多様性に配慮したケア提供のための看護ガイドライン開発に向けて
3. 学会等名 2017キックオフ国際シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiko Nosaki, Ariko Noji
2. 発表標題 Difficulties in delivering nursing care to foreign patients among Japanese nurses and their attributes: text mining approach
3. 学会等名 TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野崎章子, 野地有子
2. 発表標題 日本人看護師の外国人患者への看護ケア提供における困難と属性の関連：テキストマイニング結果より
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ariko Noji, Akiko Nosaki, Dale Glaser, Lucia Gonzales, Daisuke Sumitani
2. 発表標題 Associations between Japanese version Caffrey Cultural Competence in Healthcare Scale (J-CCCHS) score among Japanese clinical nurses and background characteristics
3. 学会等名 21th EAFONS & 11th INC (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 野地有子, 野崎章子
2. 発表標題 わが国の看護職のカルチュラル・コンピテンスに関する研究-潜在的な分析から-
3. 学会等名 第8回日本看護評価学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ariko Noji, Akiko Nosaki, Dale Glaser, Lucia Gonzales
2. 発表標題 Classifications of cultural competence among clinical nurses in Japan using Latent Profile Analysis
3. 学会等名 International Healthcare and Patient Safety Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 野地有子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (有)B.D.S	5. 総ページ数 8
3. 書名 nGlobeガイドライン2022 病院と看護の国際化ガイドライン	

1. 著者名 溝部昌子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 モリプリンティング	5. 総ページ数 48
3. 書名 文化的安全を守る看護 食事にまつわる患者ケア	

1. 著者名 野地有子, 飯島佐知子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 野崎章子, 神島滋子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 (有)B.D.S	5. 総ページ数 114
3. 書名 nGlobe研修 多文化環境と看護ケア コンテンツ報告書	

1. 著者名 野地有子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 296
3. 書名 公衆衛生看護概論	

1. 著者名 野地有子, 飯島佐知子、近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 野崎章子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 (有)B.D.S	5. 総ページ数 134
3. 書名 nGlobe研修 Nursing Challenge コンテンツ報告書	

1. 著者名 溝部昌子, マシュー・ポーター, 野地有子, 飯島佐知子、近藤麻理, 小寺さやか, 野崎章子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 西南女学院大学	5. 総ページ数 24
3. 書名 看護英語ノート	

1. 著者名 野地有子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 分担ページ8 (総ページ数288)
3. 書名 国際看護 (第 章看護における文化 3.文化ケアアプローチ)	

1. 著者名 Ariko Noji	4. 発行年 2020年
2. 出版社 (有)B.D.S	5. 総ページ数 2
3. 書名 The Guide for How to Encounter with Different Culture 2018, English edition	

1. 著者名 38.野地有子, 近藤麻理, 小寺さやか, 溝部昌子, 炭谷大輔, 相原綾子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 (有) B.D.S	5. 総ページ数 140
3. 書名 nGlobe研修ベーシックコース・アドバンスコース・エキスパートコース コンテンツ報告書	

1. 著者名 近藤麻理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 136
3. 書名 国際看護 第2版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」ホームページ https://www.n.chiba-u.jp/nglobe/ 「市民公開講座」 https://www.n.chiba-u.jp/contribution/disaster_care/latest.html/ 「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」アプリ https://www.n.chiba-u.jp/nglobe/app/ 「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」ホームページ http://nglobe.jp/ 「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」アプリ http://ancc.link/app/ 「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」ホームページ http://nglobe.jp/ 「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン」アプリ http://ancc.link/app/ ホームページ http://ancc.link/ アプリ http://ancc.link/app/</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	飯島 佐知子 (Iijima Sachiko) (80389890)	順天堂大学・医療看護学部・教授 (32620)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野崎 章子 (Nosaki Akiko) (90361419)	千葉大学・大学院看護学研究科・講師 (12501)	
研究分担者	溝部 昌子 (Mizobe Akiko) (00625684)	西南学院大学・保健福祉学部・教授 (37119)	
研究分担者	近藤 麻理 (Kondo Mari) (70325413)	関西医科大学・看護学部・教授 (34417)	
研究分担者	小寺 さやか (Kotera Sayaka) (30509617)	神戸大学・保健学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	神島 滋子 (Kamishima Shigeko) (00433136)	札幌市立大学・看護学部・准教授 (20105)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中山 健夫 (Nakayama Takeo)	京都大学・大学院医学研究科・教授	
研究協力者	大友 英子 (Ohotomo Eiko)	東京大学・医学部附属病院・師長	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	浜崎 美子 (Hamasaki Yoshiko)	医療法人財団康生会武田病院・看護部・看護部長	
研究協力者	小林 康司 (Kobayashi Kouji)	公益財団法人日本看護協会	
研究協力者	水野 雅子 (Mizuno Masako)	日本医科大学千葉北総病院・看護部・副看護部長	
研究協力者	別府 佳代子 (Beppu Kayoko)	国立国際医療研究センター病院・国際診療科・医療コーディネータ	
研究協力者	小粥 美香 (Kogayu Mika)	東京大学医科学研究所附属病院・看護部・師長	
研究協力者	谷井 真弓 (Tnii Mayumi)	東京医科大学病院・看護部・副看護部長	
研究協力者	ジーベルト ウテ (Siebert Ute)	シャリテ医科大学病院・IPIKAプロジェクト・プロジェクトリーダー・講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計18件

国際研究集会 nGlobeセミナー2020 9月19日 看護職の多文化対応能力研修	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

国際研究集会 nGlobeセミナー2020 9月26日 看護職の多文化対応能力研修	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 nGlobeセミナー2020 10月31日 看護職の多文化対応能力研修	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修アドバンスコース, 千葉大学 けやき会館	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 nGlobe研修看護職の多文化対応能力研修エキスパートコース, Webinar, 千葉大学及びドイツ・シャリテ医科大学	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 第1回千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター共同研究拡大会議	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 千葉大学大学院看護学研究科第2回グローバルヘルス国際セミナー	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 第4回千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター共同研究拡大会議	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 2017キックオフ国際シンポジウム「診療ガイドラインの軌跡と未来形」“ why and how ” of trustworthy clinical practice guidelines	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 国際nGlobe研修 IPIKAの開発 2020年3月14日	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際nGlobe研修 異文化環境における対立への対応 2020年9月19日	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際nGlobe研修 病院における差別・格差への対応 2020年9月26日	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際nGlobe研修 外国人患者の臨床とコミュニケーション 2020年10月31日	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 国際nGlobe研修 多文化環境における医療倫理 2021年1月23日	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際nGlobe交流スタディ__多文化環境と看護ケア (事例1) 2021年6月19日	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際nGlobe交流スタディ__多文化環境と看護ケア (事例2, 3) 2021年7月17日	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際nGlobe交流スタディ__多文化環境と看護ケア (看護国際化ガイドライン) 2021年9月18日	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際nGlobe科研 x 千葉大学看護学部公開講座 2021年11月20日	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	シャリテ医科大学	シャリテ医科大学病院		
米国	サンディエゴ大学	ワシントン大学	サンディエゴ日本クリニック	他2機関
タイ	コンケン大学	チェンマイ大学	チェンマイ大学病院	他1機関
韓国	漢陽大学	ソウル大学	韓国看護協会	
英国	コベントリー大学	英国公衆衛生看護WHOコラボレーションセンター		
アラブ首長国連邦	湾岸医科大学			
カナダ	マックマスター大学			